

C群科目（外国語科目）に関する「教員授業アンケート」
報 告 書

2006年度

京都大学大学院人間・環境学研究科外国語教育再構造化委員会

京都大学高等教育研究開発推進機構

目 次

はじめに	1
1. 調査の概要	2
2. 各外国語の分析	4
英語	4
ドイツ語	14
フランス語	19
中国語	26
朝鮮語	33
スペイン語	36
3. 外国語教育再構造化委員会 WG 活動記録 (平成17年10月～18年12月)	43
4. 京都大学「特色ある大学教育支援プログラム (GP)」シンポジウム 『これからの大学の外国語教育－カリキュラム開発の意義と実践－』(平成17年12月10日開催) ポスター	44
おわりに	45

はじめに

平成18年6月末から7月初めにかけて、当委員会では「教員授業アンケート」を実施した。これはこれまで一回生クラス、二回生クラス、単位未修得者クラスと逐次実施してきた「学生授業アンケート」を締めくくるものとして、新たに対象を「学生」ではなく「教員」として実施したものである。

一連の授業アンケートを始めたきっかけは、もっぱら外国語授業クラスの「受け手」であった学生の声にも耳を傾け、取り入れるべきは取り入れて、今後の授業運営・改善に役立てようというものであった。その試みはかなりの収穫があったと我々は認識している。授業アンケートによって、学生側の満足度の実態を知り得たのみならず、学生からの具体的で真摯な要望も把握でき、教員サイドとしての反省材料、改善のための資料が得られたことは間違いない。

ただ、この一連のアンケートを行ううちに、今度は授業の「与え手」たる教員の反応も聞いてみるのはどうかという声が委員の耳に伝わってきた。すでに実施した授業アンケートの報告書を読んだ教員が、教員なりの言い分を持ち、自分たちの意見にも耳を傾けてもらいたいと思うに至ったのは、ある意味で当然のことであろう。

昨今、我が国のほとんどの大学において授業アンケートが行われているが、こうした授業アンケートはほとんどすべてが学生のみを対象としたものであり、教員をも対象としたアンケートはまず見かけない。この意味で、今回我々が実施した「教員授業アンケート」は、少々手前味噌かもしれないが、稀少価値を持った、興味深いものであるに相違ない。本来、授業改善を目指すアンケートは、授業の当事者双方がそれぞれ要望を出し合うことで、より意義あるものとなるはずである。

本アンケートによって、我々が行ってきた一連の授業アンケートは一応の完結を見る。これらが今後の京都大学における外国語教育の企画、運営にとって貴重な資料となることは言うまでもあるまい。毎回ご協力を頂いた関係者各位に対し、委員会一同、あらためて厚く御礼申し上げる次第である。

平成19年3月
京都大学大学院人間・環境学研究所
外国語教育再構造化委員会
委員長 丹羽隆昭

1. 調査の概要

1) 実施時期

平成18年6月～平成18年7月

2) 実施対象

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・イタリア語・スペイン語の
全授業担当教員

3) アンケート形式

今回の質問紙調査においては、外国語部会ごとに質問紙の作成と分析を行った。
ただし、以下の三点を共通要素として含むこととした。

- (a) 授業についての感想
- (b) 学生への期待
- (c) 本学の外国語教育制度についての感想

なお使用したアンケート用紙は、各外国語科目の分析の末尾に添えられているので、そちらを参照していただきたい。

4) アンケート協力依頼文書の署名

アンケート協力依頼文書(次頁参照)には外国語教育再構造化委員会委員長名(一部外国語部会主任の署名)を付した。

5) アンケートの実施

専任教員に対しては各外国語部会が、非常勤教員に対しては高等教育研究開発推進機構がアンケート用紙を授業担当者に送付し、同機構において回収した。

6) アンケートの集計(対象クラス数)

外国語ごとのアンケート対象クラス数・回収数・回収率は以下のとおりである。

外国語	対象クラス数	回収数	回収率
英語	220	90	40.9%
ドイツ語	110	34	30.9%
フランス語	65	37	56.9%
中国語	77	37	48.1%
朝鮮語	6	2	33.3%
イタリア語	7	1	14.3%
スペイン語	14	11	78.6%
合計	499	212	42.5%

7) アンケートの分析

各外国語部会のアンケート委員(巻末参照)が、集計結果に基づき分析を行った。
なお、人間・環境学研究科に専任教員のない外国語については田地野委員が代行したが、イタリア語に関しては回収率が低かったため、分析を行わなかった。

(アンケート依頼文書)

平成18年度「教員授業アンケート」実施に当たってのお願い

平素は本学の外国語教育に多大のご尽力を賜り、誠にありがとうございます。
当委員会では、京都大学における外国語教育の向上をめざし、皆様方のご協力を得て、これまで一回生クラス、二回生クラス、それに単位未修得者クラスのそれぞれにおいて「学生授業アンケート」を実施して参りました。これらの結果は、前ふたつについては冊子状の報告書の形ですでに皆様方のお手元にお届けしたとおりであり、また単位未修得者クラス対象のものも近日中には配布できる見込みです。

これら一連のアンケートを締めくくるものとして、平成18年度においては、授業に当たっておられる教員を対象として、表記のごとき「教員授業アンケート」を実施させていただくこととなりました。本年六月末から七月初めにかけての時点で、今年度担当しておられる外国語クラスに関する率直なご意見を賜りたく存じます。できるだけ多くのデータを収集したいと考えますので、恐縮ながら、できればご担当の授業のすべてについてそれぞれお答えいただきたく存じます。特に、同一授業科目名であっても、性格が異なる授業の場合には、できるだけすべてのクラスについてお答えいただければ幸甚に存じます。

またご記入の細目等について、ご担当の外国語によって異なる点もございますので、それぞれの外国語部会が用意する添え状をご参照下さい。

ご記入いただいたアンケート用紙は、専任の先生方の場合には共通教育教務掛へ、また非常勤の先生方の場合には授業準備室に設置する回収箱へ、それぞれ、前期授業の最終日までにお戻し下さい。

皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成18年6月1日
京 都 大 学
外国語教育再構造化委員会
委員長 丹羽 隆 昭

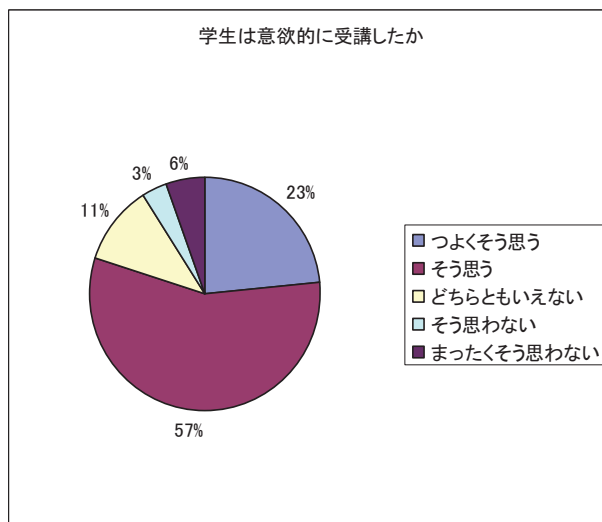
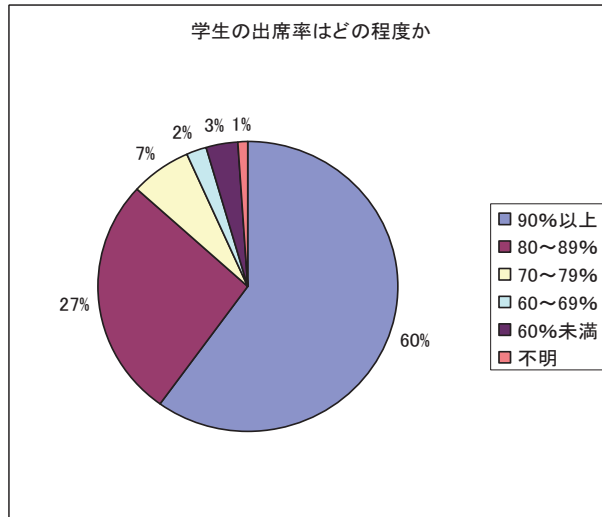
2. 各外国語の分析

・ 英語

1. 集計の結果

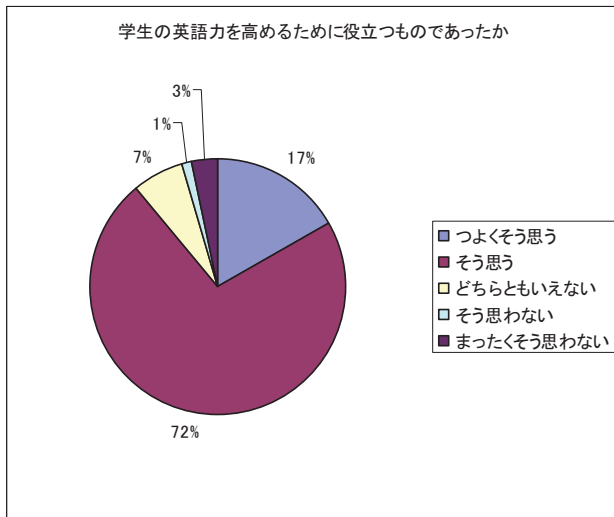
以下にアンケート用紙 Form A の質問 3 の各項目から得られた量的データを円グラフとして示す。

1) 学生の授業出席率

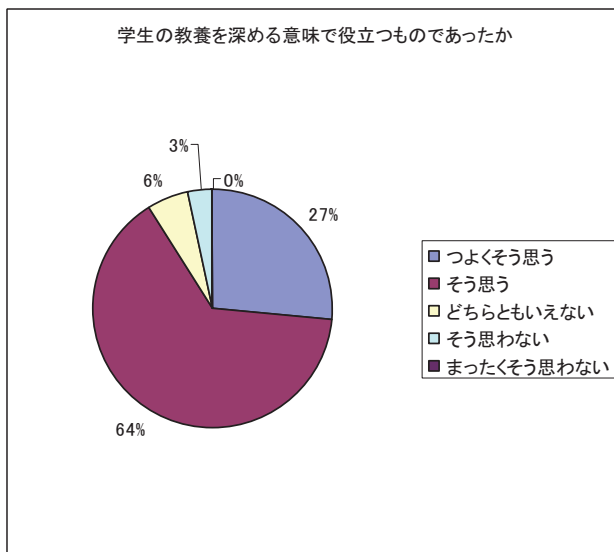


出席率の高い学生の大部分がそれなりの意欲を持って授業に臨んでいることが伺われるのは心強いが、そのなかでも強い学習意欲を積極的に示している比率が出席者の4分の1程度であるということの意味を検討することが必要であろう。以前行われた学生自身に対するアンケート結果から、個別に多様な要求を持つことが明らかとなった学生の現状にあって、現在のクラスサイズのままでは学生の意欲を一様に喚起することがいかに困難であるかを考慮するとき、この数値であれば、現在の教員の努力をむしろ評価すべきなのかもしれない。後でも触れるが、教員の不満の圧倒的多数がクラス人数の多さに対するものであることを考えると、学生の意欲を高める方策を考える上で、少なくとも、クラスサイズの再検討が必要不可欠であると思われる。

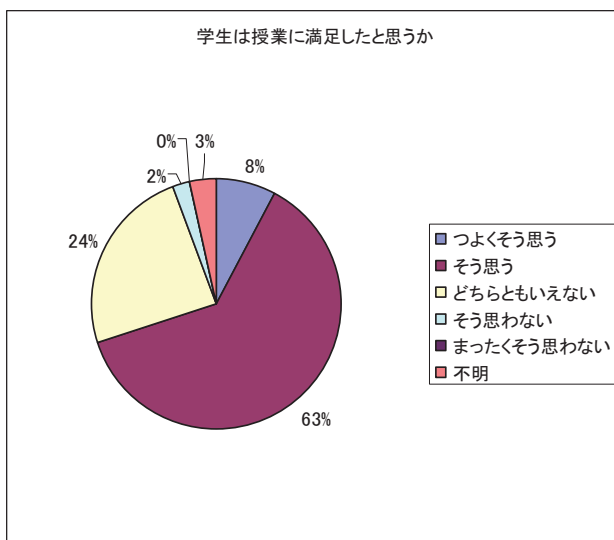
2) 言語技能の育成に関する評価



3) 教養の涵養に関する評価



4) 学生の授業満足度



言語技能の育成に対する配慮はもとより、それでいて、単なる技能のトレーニングにとどまらず、さらに高い教養を同時に意識した授業のあり方を工夫している教員の努力の姿に、現在、京都大学が掲げている学術目的のための英語教育という考え方が、常勤のみならず非常勤の先生方にも浸透しつつあることが伺われ、勇気づけられる。問題は、二兎を同時に追おうとすることで、結果として学生の満足につながる成果が上がっているかだが、アンケートの結果からは、教員の眼から見て、今一步のところにとどまっているのが現状である。この成果を確かなものとするためにいかなる制度上の改善が必要であると教員が考えているかを次項において順次、考察する。

2. 授業についての感想

クラスサイズについての意見が圧倒的に多い。授業科目別に意見を整理しながら、以下順次検討を加えたい。まず、E1Rについて、

- ・ 58人の大人数という劣悪な環境なので授業が進めにくい。
- ・ 学生数が60名は多すぎます。
- ・ 50名という人数は、きめ細かい授業をするには多すぎる。
- ・ Readingの授業であるが、50人というクラスサイズは大きすぎる。双方向授業を実践するには向かない。せめて30人程度とすべきである。
- ・ 1クラスあたりの人数が多く、個別の対応が十分にできない。せめて昨年度までの30名程であればと思います。
- ・ 個々の学生の英語の能力に差があるので、50人同じクラスは双方にとって辛い。
- ・ 語学のクラスにしては人数が多すぎると思います。(E1R)
- ・ もう少し人数が少なければ、もっと個人レベルで指導ができると思います。例えば35~40人サイズのクラスでも従来より教えやすく、学びやすくなると思います。
- ・ リーディングクラスのサイズが昨年度より大きくなった結果、授業環境が悪化した。人数が多くなったことにより、全般的に学生の態度が集中力を欠いた散漫なものとなったという印象が強い。発表者の声がよく聞こえないような大教室で授業を行うのは、語学のクラスとしては、適正であるとは思えない。
- ・ Class size if reduced would allow for further teacher-student interaction.

リーディングは従来、小クラスで教えられていたために、今回の改編により、授業効率が悪化したと嘆く声が多く寄せられている。以前の小クラスとまでは行かなくとも、せめて40名程度まで減らすことを真剣に検討しなければならないであろう。そのための工夫の一つとして

- ・ 毎年のことながら、E2Sのクラスは、登録者の出席率が非常に低い。(中略) E2Sのクラス数はもっと減らしてもよいと思う。その分、E1Rのクラスサイズを小さくしてほしい。

単位未修得者を減らすための方策としての授業の改善には自ずと限界があり、授業を多様化することで個別の要求に応じるというよりもむしろ個人指導やカウンセリング等を通じての個人対応に馴染むところがある。また、授業改善や懇切丁寧な対応において得られた成果として、単位未修得者が減少するに従い、E2Sのクラス数を減らすことは、授業改

善の成果の表れで、むしろ好ましいことと言わなければならない。単位未修得者数の動向を注視しつつ、E2Sのクラス数を漸次削減することで得られた余裕を、当面の課題であるリーディングクラスの改善に振り向けるというこのアイデアは検討に値するであろう。しかしそれだけでは、大幅な改善は望めないこともまた認めざるを得ない。

次に、より恵まれているはずの小クラスで、アカデミックライティングを行う E1W についても同様の問題が指摘されている。

- E1W は課題の添削という仕事がありますので、クラス人数は、できたらもう少し減らしてください（もっとも昔よりずいぶんよくなりましたが）。
- 現在のクラスサイズでは添削に相当な時間がかかる。こうした課題を課すのなら、30人程度が上限ではないだろうか。
- 1クラスの人数（35名）は、Writingの授業としてはまだまだ大きすぎる。半分ぐらいにするのが望ましい。
- Writingのclassとしては(35名という定員は)クラス・サイズが大きすぎると思われる。20名程度まで落とさないと十分な添削指導は行いにくい。

アカデミックライティングを指導する上で、添削は大変有効な手段であるが、これにこだわるならば、確かに現在のクラスサイズでも厳しいと感じている教員が大多数である。これに対応する別な方法として、TAの活用が考えられるが、総クラス数の多さを考慮すると、非常勤講師が担当するクラスをも含めて全面的にTAを導入するというのは、現在の院生数や財政上の理由から当面は非現実的であろう。ならば、添削を毎回行わずに作文力をつける方法を、添削指導と併用するということも考えられる。この点につき、

- E1Wについて、アカデミックライティングを教えてほしいということでこちらに全面的に任せてもらっているのは良いが、もう少し他の先生が同じ授業科目名でどういう内容を教えているか情報交換する場がほしい。同じ英語のアカデミックライティングという名の下でもそれぞれの先生で考えることは違うかもしれないし、シラバスからの情報だけでは分からないこともある。
- 日本人大学生用に書かれた英語アカデミックライティング用の良いテキストがなくて困った。結局、アメリカで出版されているESL学生用のテキストを使ったが、やはり文化的背景の違いもあり日本人の学生には難しい部分があったようだ。

特に指導上の工夫・妙案につき、意見を交換する機会、場の設定の必要性はこれからより一層高まるものと思われる。非常勤講師の人数の多さを考慮すれば一堂に会する機会を設けることは難しいかもしれないが、得られた情報をメーリング・リストで発信する、あるいは、KULASIS上に情報を集めて、各教員が自由に閲覧できるようにするといったことも検討されてよいと思われる。

次に、英語IIについての全般的意見であるが、

- 新しいカリキュラムのもと、英語IIの授業も整理され、学生にとっては(教師にとって)それぞれの目的、目標、内容が明示され非常に分かりやすいものとなった。目標に向けて授業計画が立てやすくなった。

英語IIでは、従来からあった、アカデミックリーディング(E2R、E2S)、アカデミック

クライティング (E2W)、アカデミックリスニング (E2L、E2C) に、新たに、アカデミックオーラルプレゼンテーション (E2P)、テストテイキング (E2T) のクラスが加わり、目標が授業科目名に反映されることによって、授業の性質が一層明示的でわかりやすくなり、この点は教員においても高く評価されていると思われる。その意味で、次の意見はこの方向での改善の更なる工夫を求めていると思われる点で注意したい。

- ・ (E2R の授業について、テキストは) 現代英語で専門性のないものをお願いされたのでそういった教材を選んだら、学生が殺到し、それに反したテキスト選びをしている方が少数で、やる気のある学生のみで楽しいとおっしゃっているのを聞くと、うらやましく感じる。私も次年度はそうしたいと望んでいる。

E2R と総括されてはいるが、アカデミックリーディングのクラスといっても、その内実は極めて多様である。その結果、学生の要望の多様化への配慮が逆に仇となって、テキスト選択の自由が本来の目的とは違った形で利用されることがあることへの警鐘となっており、この意見は受け止めるべきものと思われる。対応策として、たとえば、内容別にトピックを指定してテキスト選択をお願いするというのも今後の検討課題として指摘しておきたい。つまり、多様性の確保を、受身的に、教員の多様な関心の偶発的帰結に委ねるのではなく、ある種の大きなデザインの中で緩やかにではあるがある種の枠を設けて意図的に按配するのである。同種の意見として、

- ・ The two classes, E1W(Faculty of Law) and E1W(Faculty of Technology), respond differently to the course materials and on average, the two groups have different English language proficiency levels, as well as different academic interests. In future, allowances for these differences should be part of the course design.

大きくは、理科系・文科系、さらには学部別に、関心の相違の大きさに配慮すべきとの意見と思われるが、あまりに学部の相違に拘泥することは、一般学術目的の英語を目指すことと抵触しかねず、むしろ多様性の確保を堅実に行うべき配慮の必要性への要望として反映させたいと考える。

次に、その他の全般的意見について検討する。

- ・ クラス内の英語力の差があまりに大きく、どこにターゲットを置いても、必ず誰かがだれてしまったり、あきらめてしまう。能力別にできないものか？
- ・ 英語力の差がクラス内で大きく、上と下の学生の指導がきびしい。習熟度別にできないものか。

習熟度別クラスの導入は、多様化への対応策のひとつとして、検討すべき課題だが、学生の差別化を固定化させる危険もあり、性急な導入はむしろ慎むべきであろう。むしろ次の意見は、クラス運営により、この能力の違いを乗り越える可能性を示唆していると思われる点、傾聴に値する。

- ・ 何人か非常に熱心で知識も豊富な学生がおり、活発に発言してくれておおいに刺激を与えてくれた。上記のような学生に引っぱられる形で、授業はかなり熱気を帯びていた。私にとっても刺激的なクラスであった。

何も教えるのは、教師ばかりが行うわけではない。学生相互のよき影響力を殺ぐことになりかねない習熟度別クラスの導入には、慎重な検討がまだ必要であろう。

最後に、耳の痛い意見を。

- Why have such large classes for only first and second years? Give all students options to take foreign language classes at anytime. Your method is to give everyone fast food instead of offering a more a la carte menu, calories over taste.

大綱化によって得られた自由を、現在の英語教育のシステムでは、完全に消化し切れていない現状を、ユーモラスにはあるが、鋭く指摘している。人的資源においても財政的にも厳しい現実を言い訳にしたいわけではないが、現状では、とにかくまず、すべての学生に、均質なハンバーガーが食べられる機会を提供することで精一杯、一品物は、心ある教員が手弁当で腕を揮うしかない現状であることを告白して、今後の検討課題としたい。

3. 学生への期待

高い意欲を期待していたが、それに裏切られたという意見から。

- 1回生のためか、みんな行儀が良く、おとなしく、授業を受ける反面、覇気がなく、物足りない気がする。
- 語学(英語)に興味がなく、必修だから仕方なく受講しているという態度の学生が多い。
- 潜在能力はあるのに、ちゃんと使っていないのが勿体ない。

正反対に、期待通りであったという意見も多い。

- まじめに授業に参加してくれたので、特に言うことはありません。
- 学生は概して熱心で、提出物のレベルもかなり高い。
- 素直で意欲的、基礎能力も高く、今年度の学生には満足しています。

両極端と思われる上記の意見のどちらを信じればいいのか。どちらのタイプの学生も、多かれ少なかれ、どのクラスにおいても見られるが、どちらの面がより一層授業において表面化するかということであろう。学生の力を見極め、要望に見合った授業を柔軟に工夫する技量が求められる所以である。

京大生一般に共通する問題点を的確に指摘していると思われるのが次のものである。

- Kyoto University students, on average, take to academic challenges in English courses 'like ducks to water'; they are self-motivated, hard-working, highly capable of productive independent study, and they are constructive in collaborative critical analysis.

That said, there are a majority of students who realize that they lack oral communication skills in English; the content of their English work is sophisticated and they are pleased to have opportunities to work with English at a level that

matches their intellectual capabilities.

入試を意識するあまりに歪められた、読解力に偏った英語の知識を、運用能力を高めることに注意を喚起することで、バランスの取れた英語力にしていくことに特段の配慮が求められていると思われる。同様に、

- ・ 読解力と実際の運用能力とのギャップを埋める努力は必要ではなかろうか。大学に入学することが勉学の目的ではなく、本当の勉学や研究は入学後から始まることを認識させるべきだろう。
- ・ 個々は高校と違い大学なので基礎力はあるはずだから、そこから発展させ何かの課題を自分で調べていく姿勢を身につけ、深い教養を培ってほしい。

学問全般に対する姿勢のあり方を、語学教育を通じて、身につけさせることの重要性を指摘する声も大きい。その意味で、英語教育の果たす、学問全般に対する貢献は大きいと言わなければならない、それだけにその使命と重責を教員は再認識すべきであろう。

その他、参考になる意見を列挙する。

- ・ 英語力の向上のみならず、文化史的な予備知識、理解力の重要性を考えて欲しい。
- ・ 英語を使う機会を見つけよう。
- ・ 授業は出席するものだというのを全学的に徹底させていただきたい。
- ・ 大学入試から数ヶ月がたち、学生の語彙力の低下が気になる。

4. 本学の外国語教育制度についての感想

まず、周辺機器や設備についての要望を列挙する。

- ・ **Academic English** の学習にふさわしい教材を今後も使いたいと思います。DVD(CD-Rom)プレーヤーのリモコンを全教室においていただきたいです。
- ・ 語学用の教室の設備を充実していただけるとありがたい。CDプレーヤーは設置してほしい。
- ・ 願わくば、常設のモニターでビデオを上映できれば、照明を消さずに済むし、板書も同時にできる。
- ・ グループディスカッションをしやすいように、机の移動のしやすい教室がよい。

語学教育に有用なソフト、ハード両面での日進月歩に立ち遅れてはならない。

- ・ 講師室のロッカーの個人占有が目立つ。ロッカー内に私物と思われるもの(テキスト、プリント類)が置きっぱなしになっていて使えないことがある。善処をお願いしたい。

講師控室の改善も急を要する課題である。部屋の広さも含め、非常勤講師に対する快適な環境の確保は、英語教育における非常勤講師の果たす、質・量両面にわたる貢献を考慮すれば、緊急の課題というべきであろう。

- ・ 学生の受講人数と教室数、その環境整備に努力してくださっていることが良く分かり

ます。でも全てもう少し少人数で行うともっとよりよい教養教育ができると思います。

CALL授業における取り組みのように、施設を整えることで、ある程度解決する領域もあるが、やはりクラスサイズが大きければ行き届いた教育を実践するのは難しいという声もまた根強い。

次に検討に値すると思われる改善の具体的提案を列挙する。

- ・ 週2回ではなかなか **motivation** が上がらない。週3回を実現するよう努力が必要。
- ・ 今年度から英語 I に関してもシラバスが求められるようになった。学生にとっては、授業の目的、目標、内容がより明確になりよかったと思う。また教師にとっても内容等について再確認できるという意味でよかったと思われる。今後は、シラバスの中身についてさらなる充実が求められるかも知れない。

現実に甘んじることなく、理想の教育を目指して、改善への意欲を失ってはならない。最後に、励まされたご意見を挙げる。

- ・ 現在の新しい視点に立っておられることや、学生等にとっての利便性等、ゆきとどいているという印象を受けました。

この言葉を励みとし、着実に改善策を実行していくことに努力したい。

5. まとめ

本学の英語教育のほぼ半数のクラスは非常勤講師によって支えられている。それゆえ、教育の均質な内実を確保するためには、非常勤講師の待遇に対し、大学は最大限の配慮を払わなければならないと同時に、いかなる教育を京都大学は目指し、それを具体的にどのようなプロセスを通じて実践していこうとしているかを明確に発信することで、多岐にわたる教師集団に、ひとつの共通した京都大学英語教育観が共有されなければならない。その共通認識の上に立って、それでいてなお、個々の教員の伸びやかな個性が自由に発揮される環境が保障されて、ようやく、自由の学風にふさわしい京都大学固有の、ユニークな英語教育が可能になるのである。幸い、近年、「学術目的の英語」(English for Academic Purposes)を核とした英語教育像が人間・環境学研究科英語部会を中心にまとめられ、「学術研究に資する英語教育」—京都大学における英語新カリキュラム—と題したパンフレットは、常勤、非常勤を問わず、すでにそれぞれの手許に配布されているが(平成18年1月)、その教育観は早くも、すでに一般に浸透した観がある。今回の教員へのアンケート結果を通じて、その実践への着実な道筋が示され、京都大学において確(しか)と根付いていくことを祈念して、この報告の結びとしたい。

6. アンケート用紙

(Form A)

平成18年度 教員対象「英語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
英語部会

このアンケートは、英語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 E 1 R	(__学部)	2 E 1 W	(__学部)	3 E 2 R	4 E 2 W
5 E 2 L		6 E 2 P		7 E 2 T	8 E 2 C
9 E 2 S					

- 3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問2) で選んだ授業科目についてお答えください。

- (1) 学生の出席率ほどの程度でしたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

- (2) 学生は意欲的に受講したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (3) 授業は学生の英語力を高めるために役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (4) 授業は学生の教養を深める意味で役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (5) 学生は授業に満足したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成18年度 教員対象「英語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
英語部会

このアンケートは、英語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 E 1 R	(__学部)	2 E 1 W	(__学部)	3 E 2 R	4 E 2 W
5 E 2 L		6 E 2 P		7 E 2 T	8 E 2 C
9 E 2 S					

- 3) 質問2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。
 - a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。
なお、次の項目を参考にしていただいても結構です。
・教材 ・課題 ・評価 ・教室環境など

- b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

- 4) 本学の外国語教育制度(例:シラバス、履修登録)について、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

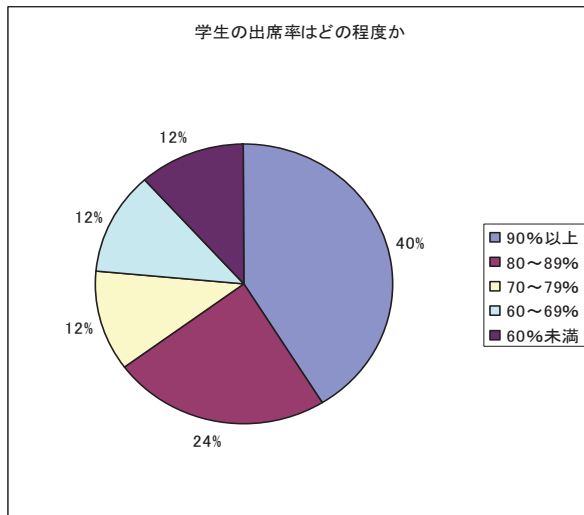
(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

・ドイツ語

ドイツ語に関するアンケート結果を、1. 集計の結果 (円グラフ)、2. 授業についての感想、3. 学生への期待、4. 本学の外国語教育制度についての感想、5. まとめ、6. アンケート用紙の順に報告する。

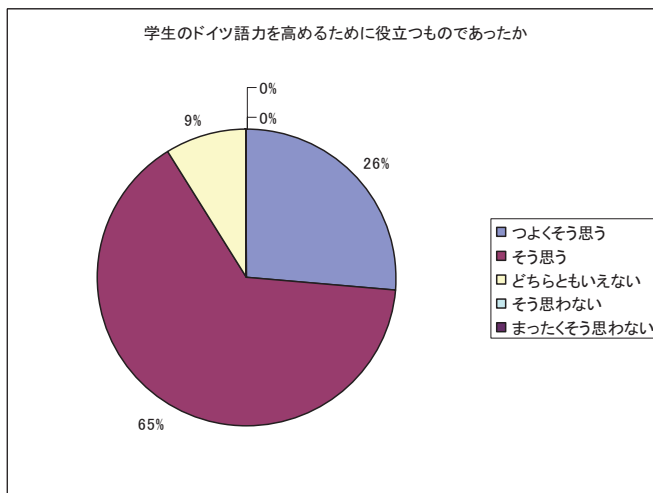
1. 集計の結果

1) 学生の授業出席率



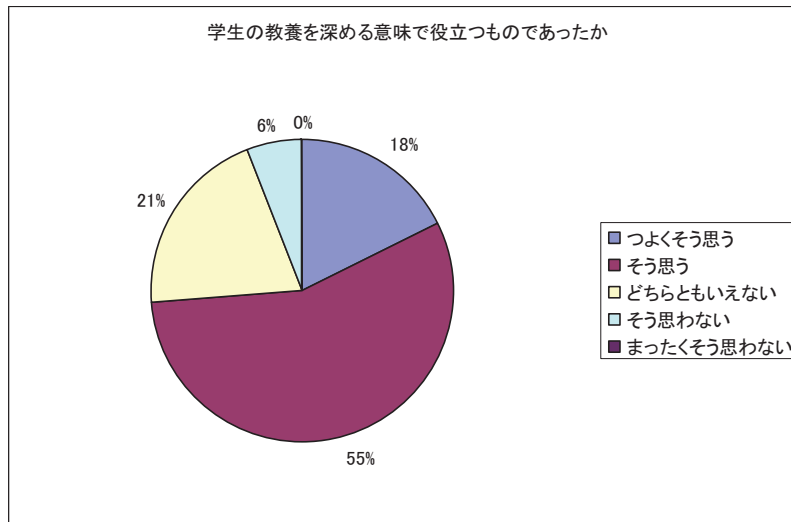
かなりの高い率（6 - 7割）の学生が80%以上の出席をしている。図表には現れないが、こうした比較的熱心な学生と、極端に出席率の悪い学生に二分化する傾向がある。現場（教室での授業）で観察していると、図の出席 60%未満の 12%の学生への動機付けが問題となろう。

2) 言語技能の育成に関する評価



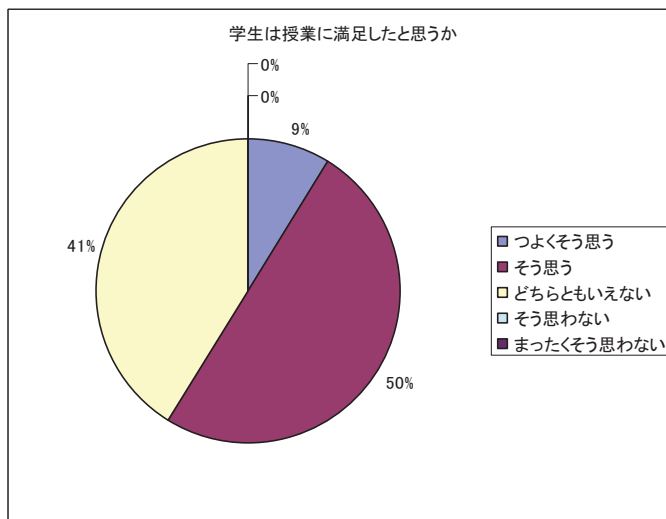
「つよく思う」・「そう思う」を合わせれば9割を超える。ただし「そう思う」の回答にどの程度の積極的な意味合いがあるか検討を要する。

3) 教養の涵養に関する評価



質問項目2と同様に、「そう思う」・「どちらとも言えない」の中身の分析が必要となつてこよう。ただ「つよくそう思う」が2割近くに達しているのは注目に値する。

4) 学生の授業満足度



「そう思う」・「どちらとも言えない」の二項目で90%を超えていることが目立つ。教員側から判断のつきにくい質問項目ではある。

2. 授業についての感想

- ・熱意をもって授業に臨む学生とそうでない学生とでは大変な学力差が生じている。
 - ・クラス人数が25名くらい以下だと外国語の授業としてやりやすく感じる。
 - ・LL教室にPCを設置してもらいたい。
- など

3. 学生への期待

- ・外国語の授業なのだから必ず予習・復習してきてもらいたい。授業がはるかに楽になるはずである。
- ・熱意をもって授業に臨む学生とそうでない学生とでは大変な学力差が生じている。
- ・再履修の学生はやはり出席率が悪いので外国語学習の意義を強く感じさせる工夫が必要であると感じられた。
など

4. 本学の外国語教育制度についての感想

- ・教室環境が最近、著しく改善され、授業がやりやすくなった。
- ・ウェブ履修のシステムは使いやすかった。
- ・クラスの予備登録の状況に関し教員用ページからも見られるようにしてほしい。
- ・学生の名簿は基本的な資料なのでやはり配布してもらいたい。
など

5. まとめ

1回生週2回の授業を断固として継続してほしい。また2回生以上の中級クラスも維持していただきたいとの非常勤講師からの声が複数あるように、近隣の大学での現況をも踏まえて本学での外国語教育のあり方を改めて見直していくべきである。本学の学生の学力低下を嘆く投書もいくつかあったが、逆に再履修クラスこそ30名以下に絞り徹底的に教え込みたいという強い意欲の教員の声もあった。学生は教えられるだけでなく自ら勉学を实践すべきという伝統的な意見と同時に、自らを反省する声も少なからず見られた。

6. アンケート用紙（依頼文）

次ページに掲載。

(Form A)

平成18年度 教員対象「ドイツ語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
ドイツ語部会

このアンケートは、ドイツ語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)
- 1 D1文法 (__学部) 2 D1実習 (__学部) 3 D1会話 4 D1CALL
5 D2 6 D2会話 7 D2CALL 8 D2ライティング 9 D3

- 3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問2) で選んだ授業科目についてお答えください。

(1) 学生の出席率ほどの程度でしたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 学生は意欲的に受講したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) 授業は学生のドイツ語力を高めるために役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(4) 授業は学生の教養を深める意味で役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(5) 学生は授業に満足したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成18年度 教員対象「ドイツ語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
ドイツ語部会

このアンケートは、ドイツ語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任 ・ 非常勤

2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 D1文法 (___学部) 2 D1実習 (___学部) 3 D1会話 4 D1CALL
5 D2 6 D2会話 7 D2CALL 8 D2ライティング 9 D3

3) 質問2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。

a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。
なお、次の項目を参考にいただいても結構です。

・教材 ・課題 ・評価 ・教室環境など

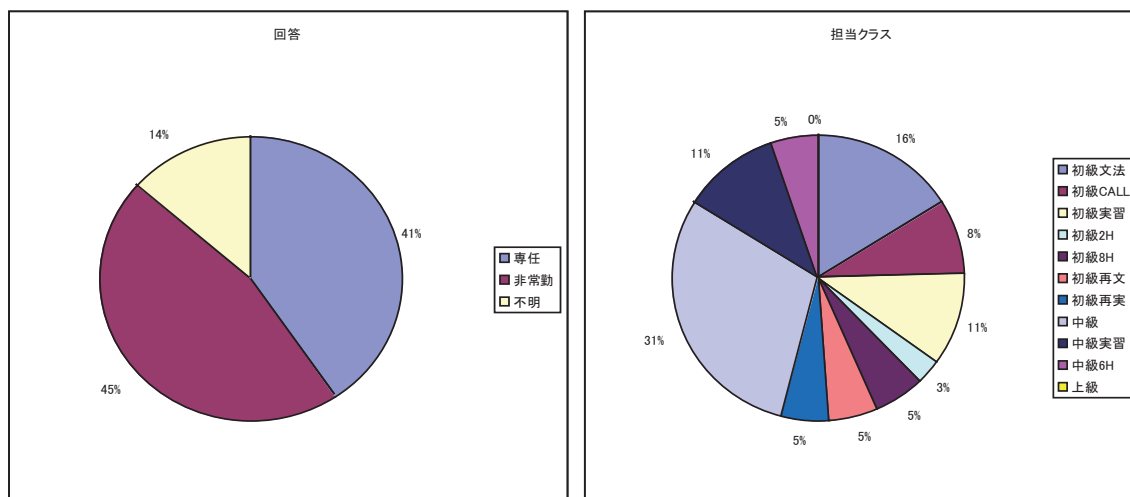
b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

4) 本学の外国語教育制度 (例：シラバス、履修登録) について、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

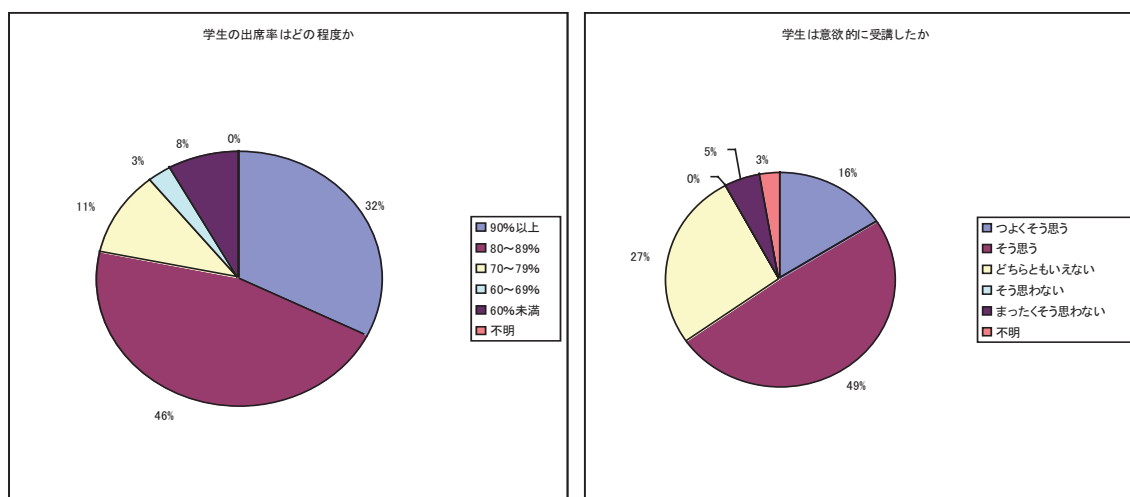
(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

・フランス語

今回実施された教員を対象とする授業アンケート調査の結果を以下にまとめる。まず対象となった教員の分布は次のグラフの通りである。

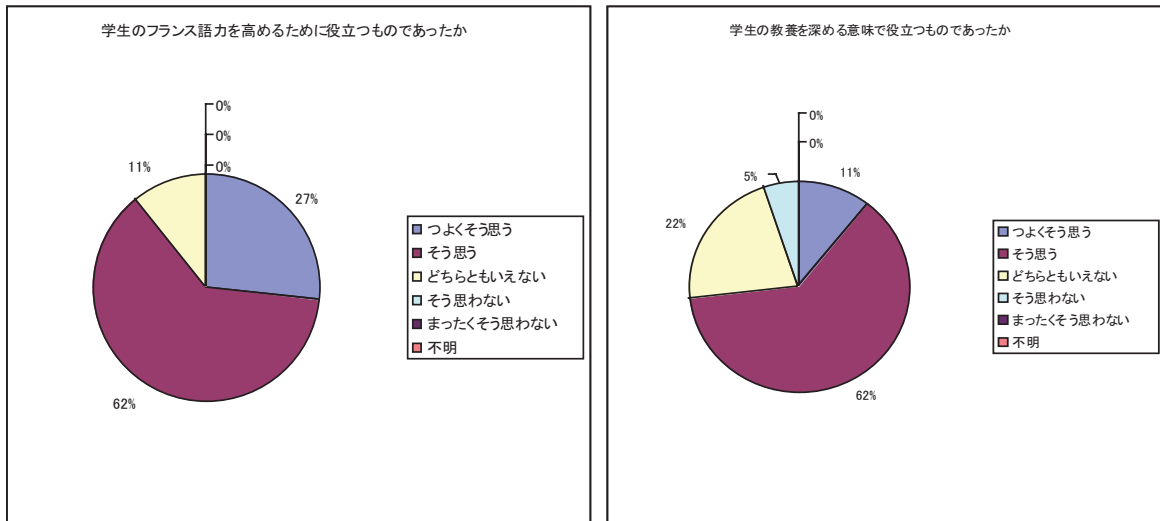


専任教員(フランス人教員を含む)が41%、非常勤教員(フランス人教員を含む)が45%、不明が14%という構成である。担当授業は上の右グラフの分布が示している。初級は1回生対象、中級は2回生対象である。



次に学生の出席率であるが、90%以上という回答が32%を占めており、80~89%出席の46%を加えると、78%という高率を示している。この回答を見る限り、今の学生は授業によく出席しているという結論が導けそうである。この結論はわれわれ教員の主観的印象と一致している。

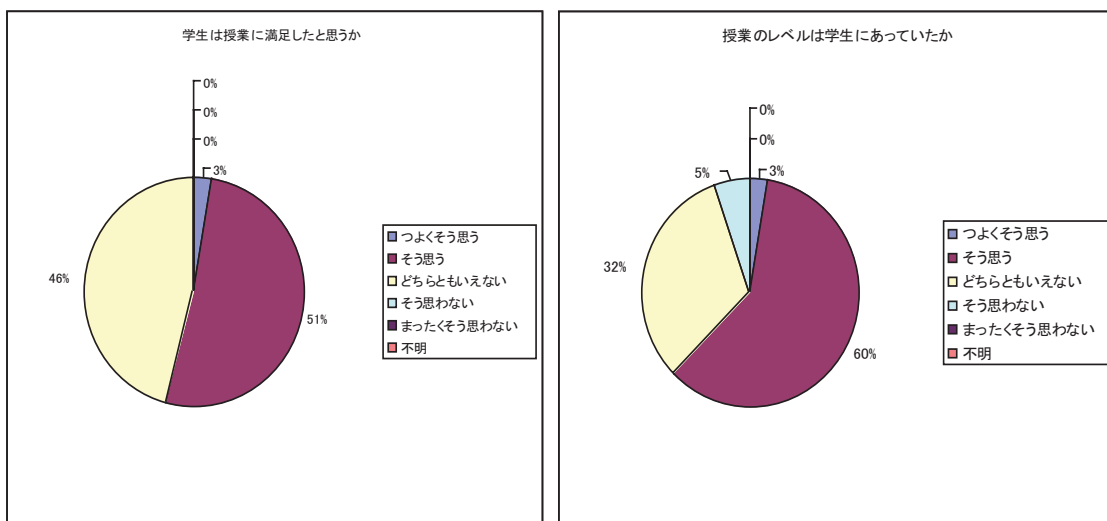
次の質問は「学生は意欲的に受講したか」であるが、「つよくそう思う」が16%、「そう思う」の49%を加算すると65%に達し、多くの教員が学生の受講態度を肯定的に評価している。しかしもとより学生の受講態度は同じひとつのクラスでもばらつきがあるので、この結果はクラスについての全体的印象に留まるだろう。



「学生のフランス語力を高めるために役立つものであったか」という質問には、27%の教員が「つよくそう思う」、62%が「そう思う」と回答している。肯定的回答が全体の89%を占めており、否定的回答は0%であった。教員は学生のフランス語力を高めるためにさまざまな工夫を凝らして授業に臨んでおり、この回答分布は教員の自己評価としては当然の結果と言える。ただし考慮しなくてはならないのは、教員側の自己評価と、学生からの回答との比較であるが、平成16年度に実施した中級クラスを対象とするアンケート調査では、「この授業はあなたのフランス語力を高めるのに役立ちましたか」という質問にたいして、「つよくそう思う」が20%、「そう思う」が54%、「どちらともいえない」が21%、「そう思わない」が5%の回答があった。肯定的評価は74%であり、教員側の89%よりはやや少ない結果となっている。この差の解釈は微妙な問題であるが、基本的には教員は役立つと考えていても、学生は必ずしもそのようには受け取らないという立場のちがいを見なすべきだろう。

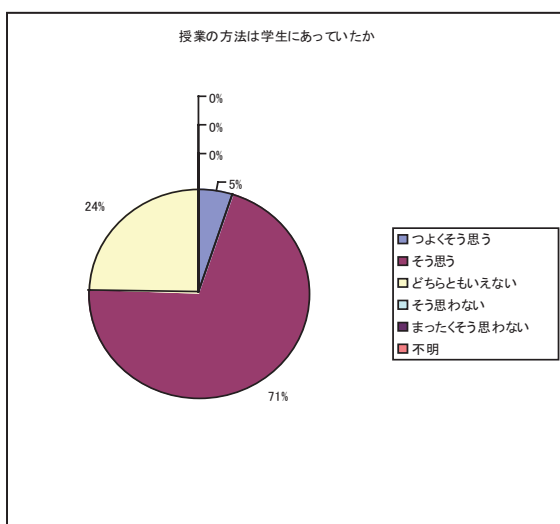
「学生の教養を高める意味で役立つものであったか」という質問には、「つよくそう思う」が11%、「そう思う」が62%あった。合計73%の教員が肯定的評価をしている。その一方で、「どちらとも言えない」が22%、「そう思わない」が5%あった。この回答分布に関しては、担当している授業の性格を加味して考えなくてはならない。初級文法の授業では文法項目の学習や練習問題が学習内容の大部分を占めている。文法学習を通して外国語を学ぶこともまた教養を高める一手段であるとする教員は肯定的回答をいただろうし、外国語能力の習得は教養とは別のものだとする教員は否定的回答をしたと考えられる。一方、初級実習や中級の授業では、狭義の外国語能力の開発だけではなく、フランスの文化・社会などの話題に触れながら授業を行っており、教養の涵養に役立つと肯定的な回答が多くあったと推察することができよう。

平成16年度実施の中級クラス対象のアンケート調査では、「つよくそう思う」が27%、「そう思う」が62%、「どちらともいえない」が11%、「そう思わない」が0%、「まったくそう思わない」が0%であった。この回答を見る限り、学生側は89%が肯定的評価をしており、教員側の数字よりも高い結果を示している。学生の回答は中級クラスに限定されているという調査対象のちがいが反映されているものと考えられるが、そのちがいを割り引いても学生はフランス語授業を通しての教養の涵養に高い評価をしているという結果になる。



次の「学生は授業に満足したと思うか」という質問には、3%が「つよく思う」、51%が「そう思う」と過半数が肯定的評価をしている。平成16年度実施の中級クラス対象のアンケート調査では、「つよく思う」が31%、「そう思う」が55%、「どちらともいえない」が11%、「そう思わない」が2%、「まったくそう思わない」が1%であった。肯定的評価は合計86%で、教員側の自己評価よりも32ポイント多いことに注目したい。

次に「授業のレベルは学生に合っていたか」という質問には、「つよく思う」が3%、「そう思う」が60%、「どちらともいえない」が32%、「そう思わない」が5%、「まったくそう思わない」が0%という回答があった。ここは63%が肯定的な評価をしていることになる。平成16年度実施の中級クラス対象のアンケート調査には同じ質問項目がなかったので、単純な数字の比較はできないが、自由記述のなかには教材が難しすぎたという声が無視できない程度含まれていた。これもまた教員側と学生側の意識の差と見なすことができるかもしれない。



最後に「授業の方法は学生に合っていたか」という質問には、「つよく思う」が5%、「そう思う」が71%、「どちらともいえない」が24%を占めた。肯定的評価は合計で76%ある一方で、「どちらともいえない」という中立的評価が24%見られた。これは授業を進める上で、時間的制

約・教室設備の制約・一クラスの学生数の多さなどの外的要因のため、必ずしも最もよい授業方法を実施することができなかったという反省がこめられているものと推測できる。

学生側からの声としては、「文法の復習を体系的にしてほしい」「前にも授業を受けたという前提で話さないでほしい」「もう少し先生と学生間のコミュニケーションがほしい」、フランス人教員については「もう少し日本語を話してほしい」などの注文がつけられており、授業方法については学生からの不満が少なからずあることが推察される。これらの点については学生からの声も勘案して、今後さらなる改善努力が求められるだろう。

次に Form B の自由記述の回答から目についた意見を拾ってみる。まず「教材、成績評価、教室設備、時間割などについての意見・感想」という項目には、次のような声が寄せられた。

- ・初級文法クラスと実習クラスの連繋がもう少しあってもよい。
- ・統一教科書のひとつとして長年使われている『新初等フランス語教本』についてこれらる学生が年々減ってきたと感じている。一部の学生を置いてけぼりにしていると感じる。
- ・現状では自分の担当した学生が合格したのかどうか分からないが、できれば知りたいと思う。
- ・初級文法クラスは『新初等フランス語教本』のクラスと CALL クラスに分かれているが、学生の適性を見て振り分けた方がよい。明らかに適性のない学生が混じっている。
- ・CALL 授業のテキストは内容が多すぎて消化しきれない。
- ・チョークは健康に悪いので、全部ホワイトボードにしてほしい。
- ・中級クラスの 50 人という人数は多すぎて、十分な発音指導などできない。
- ・机を自由に移動して配置できる教室がほしい。

教室設備については大きさ・ビデオ設備などに満足しているという声もある一方で、中級のクラスサイズについては依然として不満があることがうかがえる。外国語教育でひとクラス 50 人という人数は明らかに異常であり、今後より少人数で教育ができることが望ましい。『新初等フランス語教本』は現在改訂作業が進行中であり、もう少し現状に合った内容に変わる予定である。

「学生への期待、要望」に関しては次のような声が寄せられた。

- ・2 時限目の授業だが、遅れて来る学生が多い。
- ・もっと積極的な学習を望みたい。
- ・勉強する気があるのかどうか疑問だ。とりあえず出席だけしておしゃべりしている学生がいる。授業をつけっぱなしの TV だとも思っているのだろうか。京大でこのような学生に出会うのは情けない。
- ・前日に休んだ学生が友人に情報を求めたりすることなく平然として「今回のプリントがない」と言って来る者が急増している。
- ・外国語に取り組む意欲が低下していると感じる。
- ・卒業前に単位を揃えるためだけに受講している学生がいる。
- ・授業中寝ている学生がいるが失礼だ。

教員の側からは総じて学生の授業に臨む態度に厳しい意見が出ている。学生を対象とするアン

ケート調査には現れない意見であり、全体として出席率が高いものの学生の受講態度や日々の勉強のやり方などについて不満足だと感じている教員が多いことがわかる。

「外国語教育制度全般」に関しては、次のような意見が寄せられている。

- ・外国語教育の位置づけが明確である。
- ・中級では前期と後期とで別の学生が履修するが、前期の初めに授業の方法や教室設備に慣れるため2-3回の授業分を費やしている。後期の初めにも同じことをしなくてはならず非効率的である。結果として後期末に到達するレベルが低下している。
- ・シラバス入力や履修名簿のダウンロードがインターネット上でできるようになり便利になった。
- ・成績をWeb上で送るようになるのは危険ではないか。
- ・初級は通年の成績評価となっているが、途中で何らかのチェックポイントがあることが望ましい。
- ・単位不足の4回生を対象とする統一卒業試験が実施できないか。出口管理を個々の教員に任せているのは問題がある。

目立った声としては、中級が前期・後期に分かれた結果、独立の授業と定義されているため、通年の時代に比べて後期末の到達度が低下したという意見である。確かに後期から履修する学生のために、前期末の到達度より低いレベルからまた始めたのでは、通年の時代よりレベルが低下するのは当然である。前期の授業と後期の授業の定義づけについてさらに工夫が必要と思われる。

また4回生やそれ以上の回生で外国語の単位が不足している学生は依然としてかなりの数がいる。教室にやって来て「卒業のためにこの単位が必要なんです」と訴えられると、十分な学力ではなくても単位を与えるケースもあると思われる。統一卒業試験をするというアイデアも考慮する余地が十分にある。

最後に今回使用したアンケート用紙をそえておく。

(FormA)

平成18年度 教員対象「フランス語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究所
フランス語部会

このアンケートは、フランス語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目をどれか一つ選んで○をつけてください。)
- 1 初級クラス別コース (京大文法) 2 初級クラス別コース (CALL クラス)
3 初級クラス別コース (実習) 4 初級2時間コース 5 初級8時間コース
6 初級再履修クラス (文法) 7 初級再履修クラス (実習) 8 中級 (一般クラス)
9 中級 (実習) 10 中級6時間コース 11 上級
- 3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問2) で選んだ授業科目についてお答えください。

(1) 学生の出席率はどの程度でしたか。

90%以上	80-89%	70-79%	60-69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 学生は意欲的に受講したと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) 授業は学生のフランス語力を高めるために役立つものであったと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(4) 授業は学生の教養を深める意味で役立つものであったと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(5) 学生は授業に満足したと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(6) 授業のレベルは学生に合っていたと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(7) 授業の方法 (教材、教室設備、etc.) は学生に合っていたと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成18年度 教員対象「フランス語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究所
フランス語部会

このアンケートは、フランス語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任 ・ 非常勤

2) 担当授業科目名

(複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を一つ選んで○をつけてください。)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 初級クラス別コース (京大文法) | 2 初級クラス別コース (CALL クラス) |
| 3 初級クラス別コース (実習) | 4 初級2時間コース |
| 5 初級8時間コース | 6 初級再履修クラス (文法) |
| 7 初級再履修クラス (実習) | 8 中級 (一般クラス) |
| 9 中級 (実習) | 10 中級6時間コース |
| 11 上級 | |

3) 質問2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。

- a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などがありましたら、ご自由にお書きください。
なお、次の項目を参考にさせていただいても結構です。
教材、成績評価、教室設備、時間割、etc.

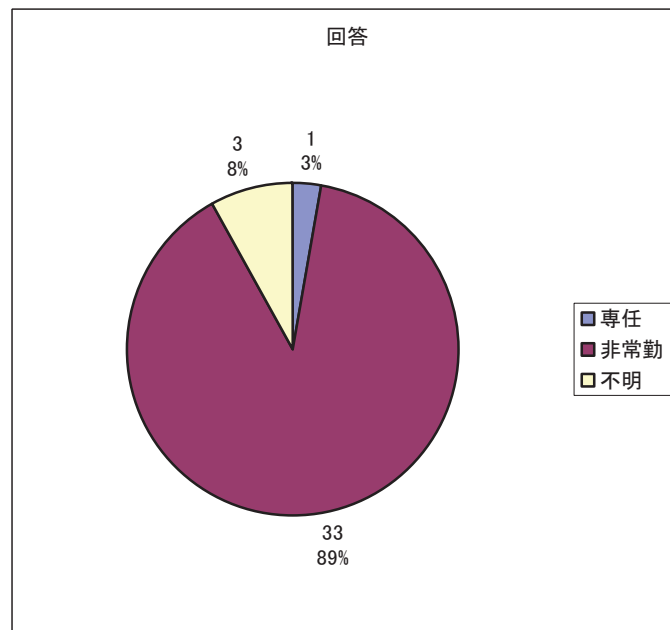
- b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

4) 本学の外国語教育制度全般 (例: シラバス, 履修登録, 開講時期, 非常勤の依頼) について、ご意見、ご感想などがありましたら、ご自由にお書きください。

・中国語

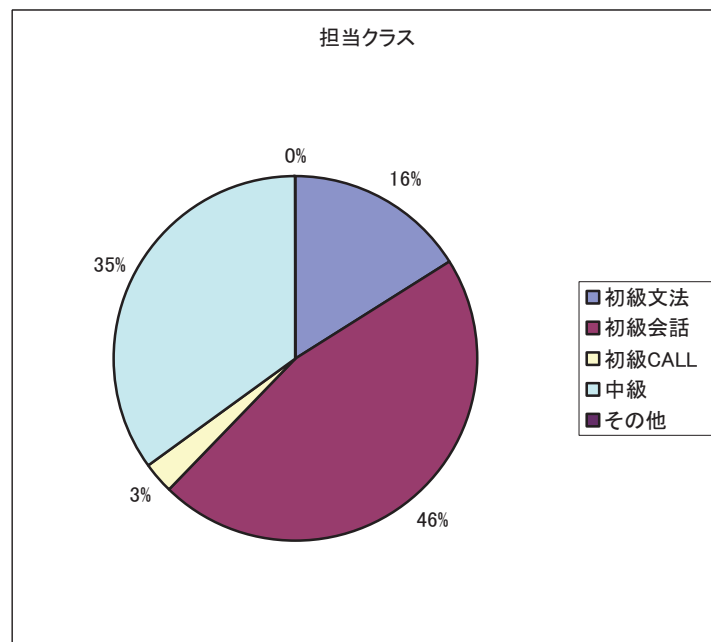
中国語の講義について、担当教員を対象として別紙のアンケートをおこなったところ、以下のような集計結果を得た。

1) として、専任であるか非常勤であるか、その職位を聞いた。



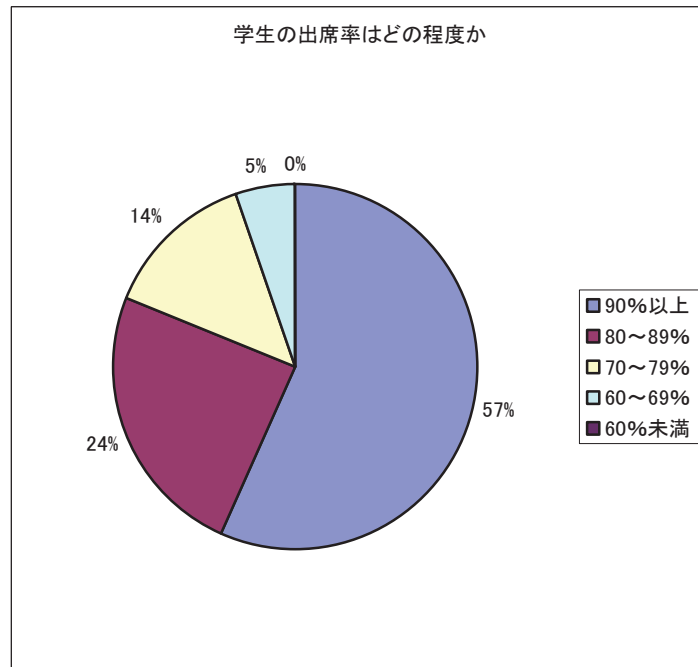
総数は37。うち専任は1で、不明が3回答あった。

2) では担当授業科目名を問うた。



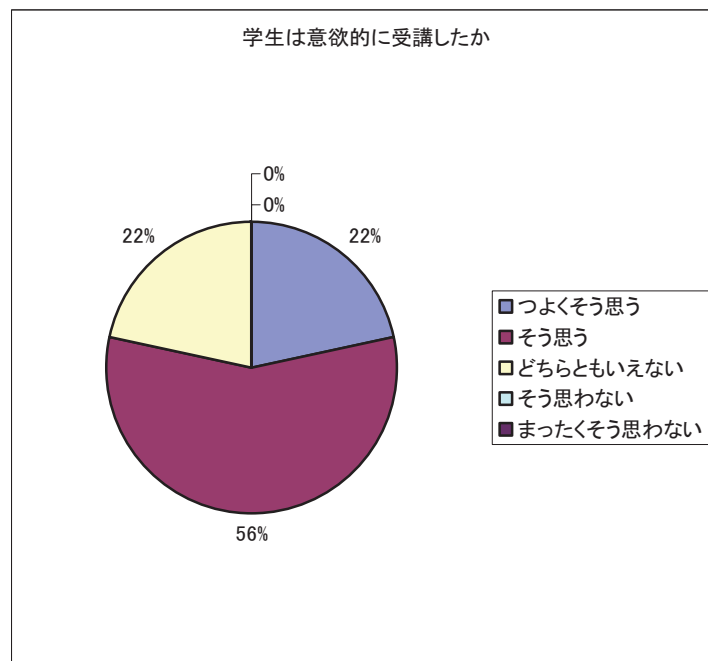
全体の約半数が初級の会話であった。

3-1 学生の出席率について



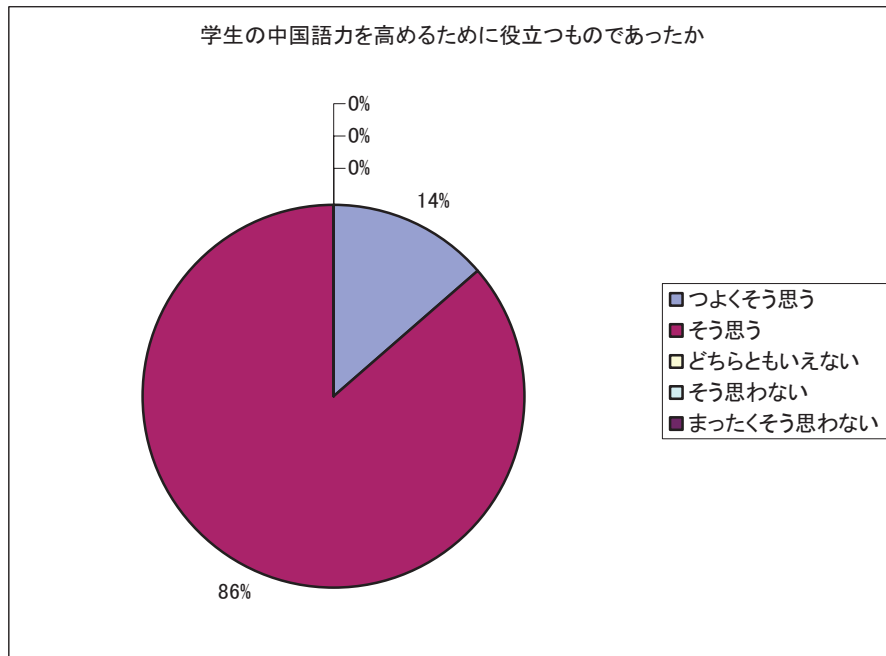
80%以上出席したものが全体の80%を超えており、まずまず満足するべき結果であったと思われる。

3-2 学生の受講意欲について



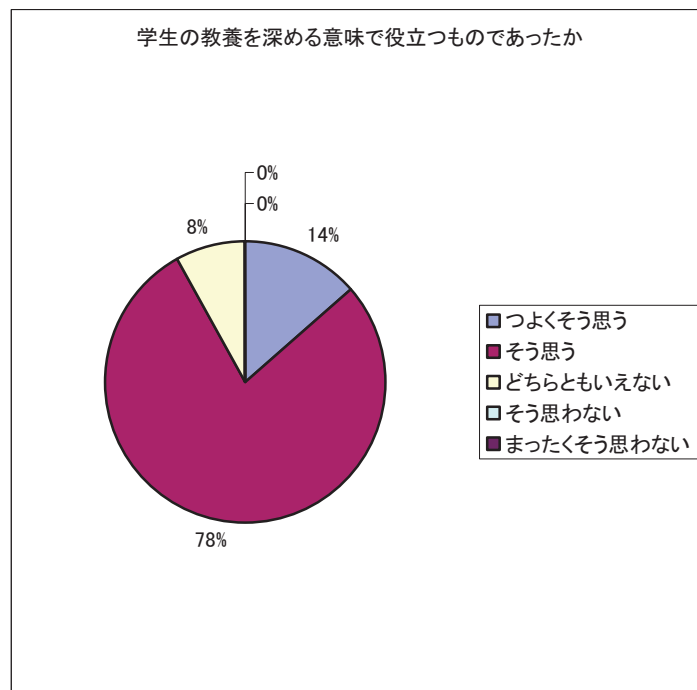
意欲的であったとする回答が80%近くに達している。

3-3 学生の中国語力を高めるために役立つものであったか否かについて



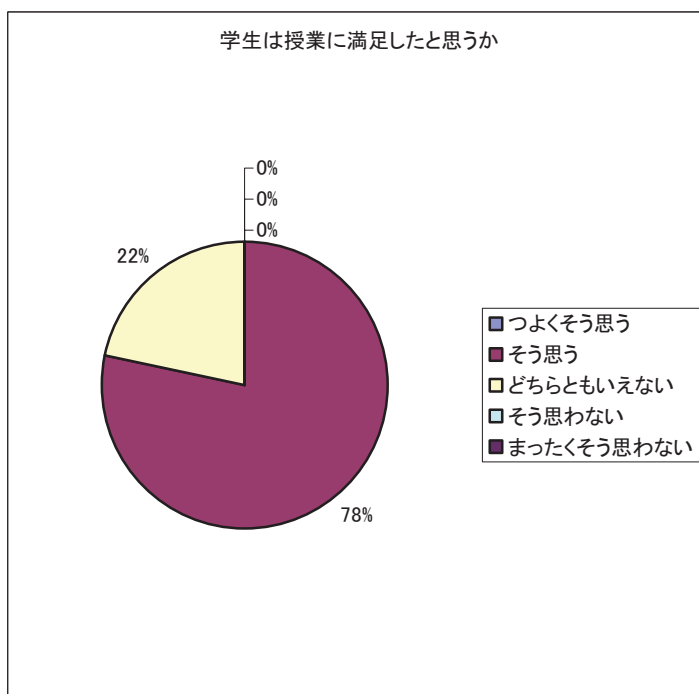
判断保留または否定的見解はゼロであって、講義の内容に教員が自信をもっていることが見て取れる。

3-4 学生の教養を深めることに役立ったか否かについて。



否定的な見解はゼロである。

3-5 学生の授業度について



ほとんどの教員は学生に一定の満足感を与えたと自負していることが見て取れる。

Form B では以下の諸事項について、自由記入の形式で問うた。

(3-a) 今後の授業改善に向けての意見や感想。例として教材・課題・評価・教室環境などを提示した。

- ◎ 教卓や椅子などが他の部屋に移動していることが多い。前日のサークル活動での後始末ができていないと思われる。
- ◎ 50名以上のクラスでは会話の練習は困難である。
- ◎ 中級の講義では、あまりに初級修了時のレベルがちがいすぎて、意味のある講義がしにくい。
- ◎ 初級のシステムを変えて、平均化できるようにするべきである。
- ◎ 人数が多すぎる。
- ◎ 文法と会話が連動していないので、学生には非効率的だと思う。
- ◎ 教材の統一やペア授業などを検討する必要がある。
- ◎ LL 教室をふやすべき。
- ◎ 2回生以上の生徒は読解力が優れているし、文法も正確に理解できているが、発音・会話の面で少し物足りないものを感じる。特に発音などは1回生できちんと身につけておく必要があると感じる。
- ◎ CALL 教室にスタッフを常駐させていることはとてもよかった。
- ◎ 奥行きが深い教室の場合、最後列まで遠すぎる。

- (3-b) 学生への期待や要望など。
- ◎ 単位が取ればよい、本当は中国語を必要とはしていないというオーラが出すぎている。やる気がある学生は、50人中5人くらいだった。
 - ◎ 再履修クラスと2回生以上の新規履修者クラスを復活できないか。意欲ある1回生とそうでない学生が混在するのは非常にやりにくい。
 - ◎ もっと積極的であることが重要。
 - ◎ 工学部の学生だからか、あまり意欲を感じなかった。語学の実用性を重視してほしい。
 - ◎ 意欲的に出席している学生と、そうでない学生の差が歴然としている。
 - ◎ もっと積極的に、大きな声で発音すること。
 - ◎ 意欲的な学生が多くてうれしかった。
 - ◎ 2割程度の学生はほぼ完全に要求したことをやってくるので、その点はよいが、宿題をやったりやらなかったりの履修者、そして結局できるようにならなかった履修者は困ります。
 - ◎ 教室が雑然としている。
- (4) 本学の外国語教育制度（例：シラバス、履修登録）について。
- ◎ 名簿が開講時に入手できないのは日本の大学事務システムの大きな課題である。
 - ◎ クラシスの名簿の左端に番号を入れてほしい（出席簿として利用したい）
 - ◎ デジタル資料がクラシスの該当箇所にアップできれば便利と思う。
 - ◎ 初級クラスとして50人は多すぎて、個別に発音の指導ができない。もう少し少人数のクラスができれば教育効果があがるにちがいない。
 - ◎ 再履修者を1回生クラスで受け入れているが、出てきているのはわずかである。
 - ◎ 成績評価で「合・否」だけでいいというのは不思議である。

【総括】

初級の履修システムを変更し、再履修者を1回生クラスの空き定員に分属させていることに関しては再考を要求する意見が多かった。部会での検討課題としたい。

受講生の勉学意欲に関しては、学部によって状況が大きくことなっている。卒業に必要な単位であるからという理由だけで受講にくる学生が圧倒的に多い現実をどのように打開していくか、全学的な取り組みを模索されたい。

(Form A)

平成 18 年度 教員対象「中国語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
中国語部会

このアンケートは初級中国語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任・非常勤

2) 担当授業科目名（複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。）

1. 中国語初級（文法）（ 曜日 時限 学部）
2. 中国語初級（会話）（ 曜日 時限 学部）
3. 中国語初級（CALL）（ 曜日 時限 学部）
4. 中国語中級（ 曜日 時限 学部）
5. その他（ ）（ 曜日 時限 学部）

3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問 2) で選んだ授業科目についてお答えください。

(1) 学生の出席率はどの程度でした。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 学生は意欲的に受講したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) 授業は学生の中国語力を高めるために役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(4) 授業は学生の教養を深める意味で役に立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(5) 学生は授業に満足したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成 18 年度 教員対象「中国語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
中国語部会

このアンケートは、初級中国語の授業改善を目的としておこなうものです。率直にお答えいただければ幸いです。なお本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任・非常勤

2) 担当授業科目名（複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。）

1. 中国語初級（文法） (曜日 時限 学部)
2. 中国語初級（会話） (曜日 時限 学部)
3. 中国語初級（CALL） (曜日 時限 学部)
4. 中国語中級 (曜日 時限 学部)
5. その他 () (曜日 時限 学部)

3) 質問 2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。

(a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

なお、次の項目を参考にさせていただいても結構です。

・教材 ・課題 ・評価 ・教室環境など

(b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

4) 本学の外国語教育制度（例：シラバス、履修登録）について、ご意見、ご感想などございましたらご自由にお書きください。

(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

・朝鮮語

朝鮮語に関するアンケート結果を、1. 授業についての感想、2. 学生への期待、3. 本学の外国語教育制度についての意見、4. アンケート用紙の順に報告する。

1. 授業についての感想

朝鮮語に関しては、現在CALL教材を作成している。できるだけ早い時期に統一的なCALL教材で授業を展開したいと考えている。

2. 学生への期待

(朝鮮語Ⅰに関して)

4分の1程度の学生はレベルが非常に低く、学習意欲もない。それ以外の学生はレベルも高く、問題ない。全体的に朝鮮語を学習することに対する目的意識は低い。

(朝鮮語Ⅱに関して)

学生は2回生以上だが、1回生時に厳しいトレーニングを全く受けていない。ほとんど何も学習していないといってよいほどレベルの低い学生が多くいる。これまでの朝鮮語教育は一体何をやってきたのか。また朝鮮語学習の動機も不明確な学生が多い。

3. 本学の外国語教育制度についての感想

外国語教育一般については語れないので、朝鮮語教育についての感想を語る。

(朝鮮語Ⅰに関して)

「自学自習」は初修外国語には全く当てはまらない。大学1年の最初の授業時から厳しくトレーニングすべきである。他大学に比べ本学のシラバスは内容のないものが多い。これでは学生がかawaiiそうだ。また、外国語はすべて定期試験期間中に試験すべきである。

(朝鮮語Ⅱに関して)

シラバスを充実させ、学生に明確な学習計画を知らせる。授業90分に対して自宅などで180分以上の予習・復習をさせる。以上のことを徹底すべきである。

(Form A)

平成18年度 教員対象「朝鮮語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
朝鮮語部会

このアンケートは、朝鮮語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 朝鮮語Ⅰ(文法) 2 朝鮮語Ⅰ(実習) 3 朝鮮語ⅡA 4 朝鮮語ⅡA(実習)

- 3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問2) で選んだ授業科目についてお答えください。

(1) 学生の出席率ほどの程度でしたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 学生は意欲的に受講したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) 授業は学生の朝鮮語力を高めるために役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(4) 授業は学生の教養を深める意味で役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(5) 学生は授業に満足したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成18年度 教員対象「朝鮮語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
朝鮮語部会

このアンケートは、朝鮮語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任 ・ 非常勤

2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 朝鮮語Ⅰ(文法) 2 朝鮮語Ⅰ(実習) 3 朝鮮語ⅡA 4 朝鮮語ⅡA(実習)

3) 質問2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。

a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

なお、次の項目を参考にしていただいても結構です。

・教材 ・課題 ・評価 ・教室環境など

b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

4) 本学の外国語教育制度(例:シラバス,履修登録)について、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

・スペイン語

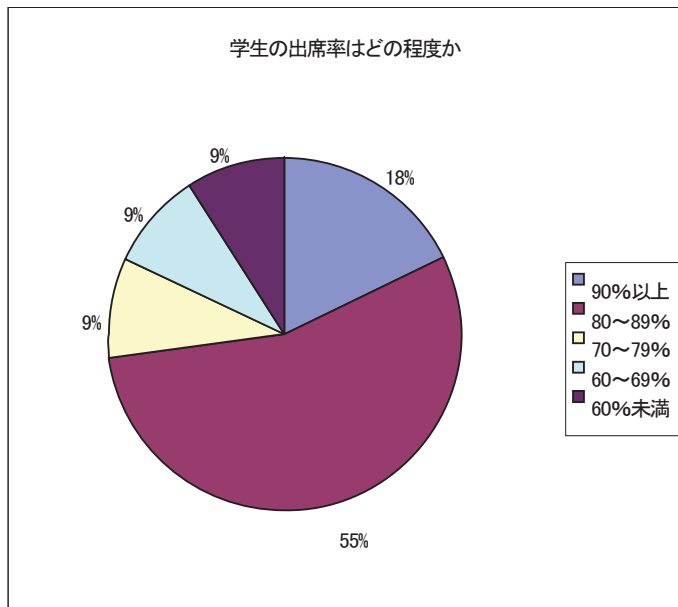
スペイン語に関するアンケート結果を、1. 集計の結果（円グラフ）、2. 授業改善に向けての意見、3. 学生への期待、4. 本学の外国語教育制度についての意見、5. まとめ、6. アンケート用紙の順に報告する。

1. 集計の結果

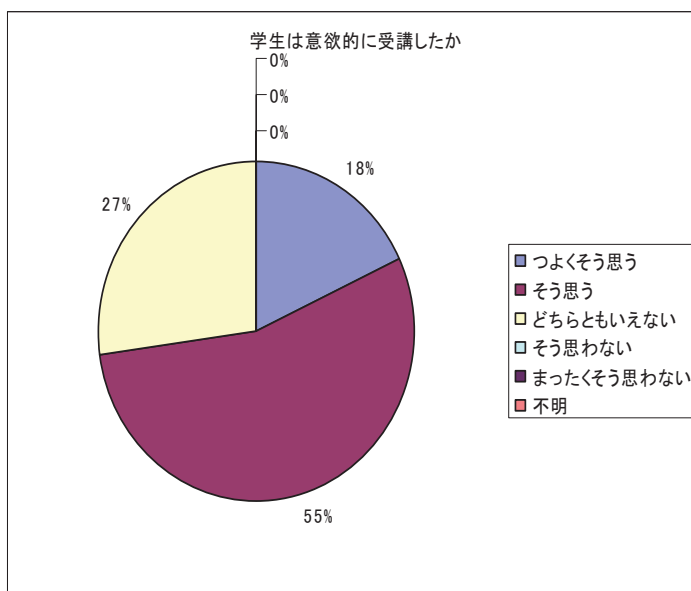
以下にアンケート用紙 Form A から得られた量的データを円グラフとして示す。

（授業出席率、授業への参加意欲、授業の有益性、教養の涵養、学生の授業満足度。）

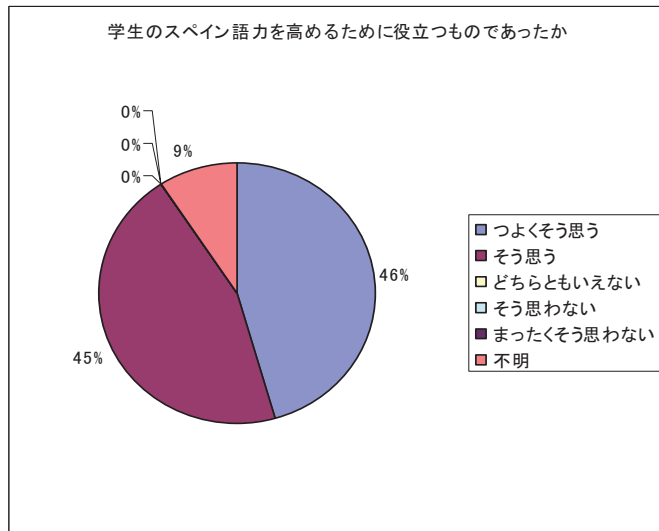
1) 学生の授業出席率



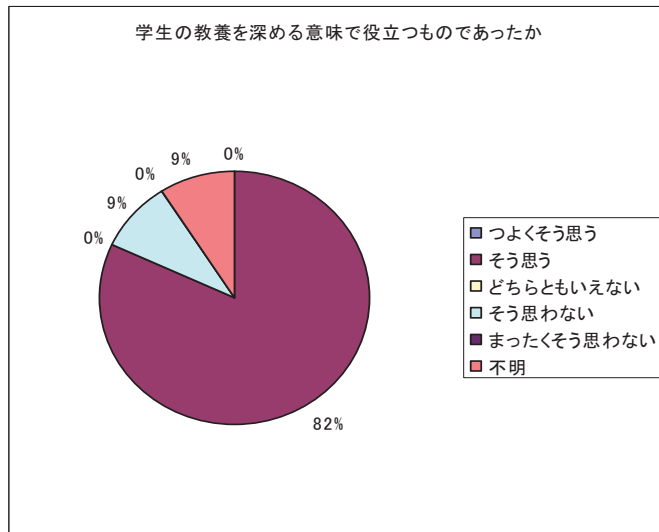
2) 授業への参加意欲



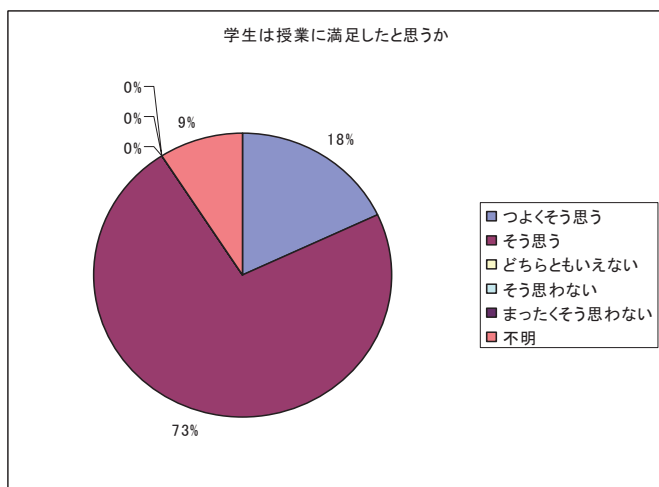
3) 授業の有益性に関する評価



4) 教養の涵養に関する評価



5) 学生の授業満足度



2. 授業改善に向けての意見

スペイン語Ⅰ（文法）、（実習）とスペイン語ⅡA、ⅡA（実習）の授業の改善に関して、教員からの意見のうち代表的なものを挙げる。

a. スペイン語Ⅰ

- ・一クラスの人数をせめて40人に制限して欲しい。（文法）
- ・学生の人数が4クラスとも50人を越えていて、とても語学の授業はできない。（文法）
- ・出席学生数が50～60名なので語学の授業としては多すぎると感じている。個別にあてていかないと授業にはならないし、それに時間をとりすぎると全体が散漫な雰囲気になるので悩んでいる。（Ⅰ文法）
- ・教科書については自宅学習ができるようにやや詳しい説明や練習問題量の多いものを使っているが、次年度以降の変更も思案中。（Ⅰ文法）
- ・外国語での会話技能を育成するには、クラスサイズは重要である。理想的なクラスサイズは約20名。現在は2クラスで100名である。100名を指導するには、9クラスが必要であろう。（実習）
- ・もしクラスがもっと小さかったら、話す機会をもっと学生に提供できるのだが。（実習）
- ・教科書を変える必要もある。（文法をしっかりと教えようと思い、少々詳しくすぎるものを選んでしまった。）（文法）
- ・教室環境はとても良い。（木曜5限の共312を除いて。この教室はビデオが使いにくい。）（文法）
- ・日本語の使用を減らす。（実習）
- ・他の教員との連携を図る。（実習）
- ・よい教材を選ぶ。（実習）

b. スペイン語ⅡA

- ・本年度より教材を文法中心のものから講読に重点を移したものに変わりましたので今のところまだ成果などについては不明。（ⅡA）
- ・クラスの登録学生数としては、30数名ということで理想的ですが、出席学生が少ない。（ⅡA）
- ・時間帯のせい出席学生数（登録学生数）が多いので、個別に指導するという点では困難がある。（ⅡA）
- ・よい教材を選ぶこと（ⅡA実習）
- ・学生の名前を覚える。（ⅡA実習）
- ・授業参加しやすい雰囲気づくり。（ⅡA実習）

3. 学生への期待

スペイン語Ⅰ（文法）、（実習）とスペイン語ⅡA、ⅡA（実習）の授業に参加する学生への期待に関して、教員からの意見のうち代表的なものを挙げる。

a. スペイン語Ⅰ

- ・全体の半数ほどの学生は真面目で、ある程度積極的です。ただ、もう少し元気があればよい。（少し大きな声で話すなど。）（Ⅰ文法）
- ・大変熱意のある受講生がいる反面、事前の準備や教科書などの持参、遅刻等でやや問題のある受講生もいる。（Ⅰ文法）
- ・積極的な授業参加。（Ⅰ実習）

- ・授業の予習と常日頃の努力。(I 実習)

b. スペイン語ⅡA

- ・熱心に受講する学生とわずかだが事前の準備なしに出席だけする学生とに分かれるように思う。(ⅡA)
- ・一般に受講態度は良いように感じるが、遅刻や事前の準備などの点で問題のある学生が少し見受けられる。(一方で大変熱心な受講生もいるが。)(ⅡA)
- ・授業時間帯のせいか登録学生数が少なく、常時出席者数はさらに少ない。(ⅡA)
- ・積極的な授業参加。(ⅡA 実習)
- ・授業の予習と常日頃の努力。(ⅡA 実習)

4. 本学の外国語教育制度についての意見

スペイン語Ⅰ(文法)、(実習)とスペイン語ⅡA、ⅡA(実習)を担当する教員からの意見のうち代表的なものを挙げる。

a. スペイン語Ⅰ

- ・専任がいないので不可能でしょうが、できれば週2回授業、 Semester制にした方が語学習得の点では効果が上がるはず。(Ⅰ文法)
- ・(履修登録について) 第1, 第2, 第3希望を調査して一クラスが定員(例えば40人)に達したら、第2, 第3希望の語学に回されるようにできないか。(Ⅰ文法)
- ・各教員がそれぞれ独自の教材を使用するなど、もっと教員間の情報交換や連携があってもよい。(Ⅰ実習)

b. スペイン語ⅡA

- ・現状のままでよいかもしれないが、もし可能なら、クラスサイズを小さくして欲しい。(会話クラスは20名程度。)(ⅡA 実習)
- ・スペイン語Ⅰ, Ⅱよりも上級レベルのクラス(例, スペイン語Ⅲ, Ⅳ)を設けてほしい。(ⅡA 実習)

5. まとめ

まず学生の出席率については、「80%以上の出席率」と回答した教員が7割以上もいる一方で、「70%未満」とする教員も約2割いた。担当クラスが同一ではないので単純に比較はできないものの、平成15年度と16年度に実施した「学生授業アンケート」結果を参考にすれば、出席率に関しては、学生と教員との間に大きな差は見受けられない。つぎに授業への参加意欲については、学生と教員、それぞれ7割以上もの回答者が肯定的意見を述べており、これについても両者間に大きな差はない。しかしながら、授業の有益性および授業の教養的側面等、授業内容に関連した質問に対しては、学生と教員とは意見を異にしている。たとえば平成16年度報告書のデータと比較してみると、授業の有益性については、肯定的な回答は、約9割の教員から得ているが、一方で、学生の方は6割程度に過ぎず、大きな差が見受けられる。また、否定的な回答をした教員は皆無であった点も特徴的である。さらに授業の教養的側面についても、肯定的評価を与えた回答者は、教員では8割に及ぶものの、学生では約4割に過ぎなかった。動機づけの観点からみれば、学生にも十分理解できるような形で、実用的側面を重視しながら、同時に教養的側面をどのように授業に取り入れていくかがこれからの検討課題となるであろう。最後に、授業満足度については、「満足である」と回答した学生が6割程度であったのに対し、

教員では回答者の9割が肯定的であったのが印象的である。これらのデータに限定して言えば、授業の内容および授業に対する学生の満足度については、教員はやや楽観的であると言えるかもしれない。学生への期待として学習意欲、また授業改善に向けた意見としてクラスサイズと教材に関する問題が多く教員から指摘されている。今回の結果を参考にして、今後授業改善を図りたいと考えている。

6. アンケート用紙

(FormA)

平成18年度 教員対象「スペイン語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科

このアンケートは、スペイン語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

- 1) 専任 ・ 非常勤
- 2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 スペイン語Ⅰ (文法) | 2 スペイン語Ⅰ (実習) |
| 3 スペイン語ⅡA | 4 スペイン語ⅡA (実習) |

- 3) 次の項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号に○をつけてください。
質問2) で選んだ授業科目についてお答えください。

- (1) 学生の出席率はどの程度でしたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

- (2) 学生は意欲的に受講したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (3) 授業は学生のスペイン語力を高めるために役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (4) 授業は学生の教養を深める意味で役立つものであったと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

- (5) 学生は授業に満足したと思う。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成18年度 教員対象「スペイン語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科

このアンケートは、スペイン語の授業改善を目的として行うものです。率直にお答えいただければ幸いです。

なお、本アンケートの結果が当該目的以外に利用されることは一切ございません。

1) 専任 ・ 非常勤

2) 担当授業科目名 (複数の授業科目をご担当の場合、本アンケート対象となる科目を任意に一つ選んで○をつけてください。)

1 スペイン語 I (文法)

2 スペイン語 I (実習)

3 スペイン語 II A

4 スペイン語 II A (実習)

3) 質問2) で選んだ授業科目について、以下の項目についてお答えください。

a) 今後の授業改善に向けて、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

なお、次の項目を参考にさせていただいても結構です。

・教材 ・課題 ・評価 ・教室環境など

b) 学生への期待、要望等、ご自由にお書きください。

4) 本学の外国語教育制度 (例: シラバス, 履修登録) について、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

3. 外国語教育再構造化委員会WG活動記録

(平成17年10月～18年12月)

年	月 日	WGの議題, 活動内容
17	10月20日	外国語教育シンポジウムの内容の再確認について
	11月18日	外国語教育シンポジウムの実施, 運営について
	12月8日	外国語教育シンポジウム開催における諸事項の最終確認について
	12月10日	「特色ある大学教育支援プログラム (GP)」シンポジウム開催。 テーマ: 『これからの大学の外国語教育 —カリキュラム開発の意義と実践—』 (第1分科会) 「大学における英語のカリキュラム開発 —現状と展望—」 (第2分科会) 「これからのCALL授業」 (第3分科会) 「これからの初修外国語教育」
	12月 ～1月	単位未修得者対象「学生授業アンケート」実施
18	2月20日	再構造化委員会: 外国語教員対象の授業アンケートについて
	3月30日	再構造化委員会: 全学共通科目授業内容, および KULASIS における初級外国語 のシラバス記入方法について
	6月～7月	外国語教員対象「授業アンケート」実施
	7月26日	再構造化委員会: クラスサイズの均等化, および人間・環境学研究科の将来構想 とC群科目のあり方について
	12月4日	再構造化委員会: シラバスの書き方, 受講制限, 非常勤講師について

4. 京都大学「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」シンポジウム

京都大学「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」シンポジウム

これからの大学の外国語教育 ーカリキュラム開発の意義と実践ー

外国語教育においてカリキュラムという概念は、重要な位置づけを持つにもかかわらず、その内実をつきつめて考えることはあまりなされていない。このシンポジウムでは、多くの大学の外国語関係者が集まり、カリキュラムをその内と外から考え直すことにより、自律学習型CALLの活用も含めてこれからの外国語教育のあり方を論じる。

日時 2005年12月10日(土) 11:00~18:00
場所 京都大学吉田南キャンパス 吉田南1号館

主旨説明：林 哲 介（京都大学副学長・高等教育研究開発推進機構長）

基調講演

◆ 11:15~12:15 ◆ 水 光 雅 則（京都大学） 共311教室

「英語のカリキュラム開発についての考え方」

◆ 13:15~14:15 ◆ 石 井 明（慶応義塾大学） 共311教室

「慶応義塾大学経済学部の英語カリキュラム開発
ー方向性のあるプログラムを目指してー」

◆ 14:30~17:00 ◆

シンポジウム

第1分科会 「大学における英語のカリキュラム開発ー現状と展望ー」 共312教室

パネリスト：寺 内 一（高千穂大学）

山 内 ひさ子（久留米工業大学）

コーディネーター：田地野 彰・ロバート・ファウザー（京都大学）

第2分科会 「これからのCALL授業」 共206教室

パネリスト：英 語：石 川 保 茂（京都外国語大学）

スペイン語：立 岩 礼 子（京都外国語大学）

フランス語：國 枝 孝 弘（慶応義塾大学）

ドイツ語：細 谷 行 輝（大阪大学）

中国語：赤 松 紀 彦（京都大学）

コーディネーター：壇 辻 正 剛・大 木 充（京都大学）

第3分科会 「これからの初修外国語教育」 共205教室

パネリスト：フランス語：三 浦 信 孝（中央大学）

朝鮮語：小 倉 紀 蔵（元東海大学）

ドイツ語：高 橋 義 人（京都大学）

コーディネーター：西 山 教 行（京都大学）

総 括：丹 羽 隆 昭（京都大学大学院人間・環境学研究科外国語再構造化委員会委員長）

プログラム終了後、懇親会を行います。

主催 京都大学高等教育研究開発推進機構

企画 京都大学大学院人間・環境学研究科外国語再構造化委員会

参加は無料ですが、可能なかぎり事前にお申し込みください。

問合せ先：〒606-8501京都市左京区吉田二本松町 京都大学共通教育推進部

TEL:075-753-6513 FAX:075-753-6691

E-mail: plan88@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

おわりに

以上で教員を対象とした平成18年度におけるC群科目(外国語科目)に関する授業アンケート報告を終える。

これまで行ってきた一連のアンケートは、学生を対象としたものであり、一回生、二回生、それに単位未修得者が、京都大学における現在の外国語科目の授業を、学生の視点からどう捉えているのかを明らかにするものであった。今回のアンケートは、立場を替えて教員を対象としたものであり、教える側に立つ教員が実際授業を行ってみてどのような意見、要望等を持っているのかを問うものである。これまでの授業アンケート報告書と併せて読んで頂くことで、本学における外国語科目の授業の全体像がよりよく把握できるものと我々は考えている。

この教員授業アンケート報告書の完成をもって、我々が実施してきた一連の授業アンケートの作業はひとまず完結する。本報告書を纏めるにあたっては、これまで同様、高等教育研究開発推進機構の方々にはデータ処理やグラフの作成等で多大なご協力を賜った。この場を借りて御礼申し上げたい。

最後に、今回の調査に快く協力していただいた教員の方々に改めて感謝の意を表す。

平成19年3月
外国語教育再構造化委員会

赤松 紀彦 ◇阿辻 哲次 大木 充 ◇岡 真理 ◇奥田 敏広
(人環・中国語) (人環・中国語) (人環・仏語) (人環・アラビア語) (人環・独語)

◇桂山 康司 河崎 靖 ◇木村 崇 水光 雅則 高橋 義人
(人環・英語) (人環・独語) (人環・露語) (高セ・英語) (人環・独語)

◇多賀 茂 ○田地野 彰 壇辻 正剛 東郷 雄二 ◎丹羽 隆昭
(人環・仏語) (高セ・英語) (学メ・英語) (人環・仏語) (人環・英語)

丸橋 良雄 道坂 昭廣 ◇小倉 紀蔵
(人環・英語) (人環・中国語) (人環・朝鮮語)

◎：委員長

○：アンケート主幹

◇：部会アンケート委員

人環：大学院人間・環境学研究科

高セ：高等教育研究開発推進センター

学メ：学術情報メディアセンター

